

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立 越生高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人の長所を伸ばし、社会で活躍できる「人材」の育成を目指す学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びによる基礎学力の充実と専門的な能力の向上
	2 豊かな心と自主的・自立的な態度の育成および進路意識の向上による進路希望の実現
	3 保護者や地域と連携した安心・安全な開かれた学校づくり

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 7名 生徒 8名 事務局(教職員) 5名
-----	----------------------------------

年度目標		年度評価(2月1日現在)						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 88%の生徒が授業内容を理解できていると回答している。全体的には学習環境、学習態度ともに良好である。 学習に対して意欲的な取り組みができていないと評価している教員が増加した。 授業(学習)に遅れ気味の生徒に対して、欠点を取らせない徹底した指導により、「やればできる体験」をさせ、自己肯定感の向上に繋がっている。 ICT機器やタブレット端末の本格的な運用等に関する校内体制づくりができて、効果的な授業展開ができつつある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容の理解はできているが、基礎的、基本的な学習内容の確実な定着に課題がある。生徒の個々に合わせた教科指導を徹底でききめ細かく指導する必要がある。 成績優秀者に対して、日常的な学習支援や長期休業中を活用した補習授業を計画的に行い、参加しやすい環境を整える必要がある。 タブレットが全生徒に整備できたことから、効果的に授業で活用できるよう教員研修を行い、負担を軽減に取り組みが必要である。 昨年度以上に学年等と必要が連携を図り、補習体制の構築や各種検定取得を推奨する必要がある。 新校開校に向けた施設等の準備を計画通り円滑に進める必要がある。 	<p>○効果的かつ質の高い学びの向上</p>	<p>①基礎的、基本的な学びの確実な定着のためには補習や適時・適切な課題を課す</p> <p>②一人一人の生徒の状況に応じた学習習慣を醸成させる指導を行う。</p> <p>③学習の成果を発揮する機会を設け、日常的な学習指導を行う。</p> <p>④ICT機器を活用して効果的な学習指導を行ってきた。</p>	<p>①授業内容が理解でき、基礎的基本的な学力が定着した生徒が増えたか。</p> <p>②ICT機器の活用機会が増えたか。</p> <p>③個々の生徒に応じた学習指導ができたか。</p> <p>④アンケート結果に生徒の学習習慣の確立が見られたか。</p> <p>⑤学習アンケート結果から生徒の意欲的な学習姿勢が見られたか。</p>	<p>①授業規律が確立し授業内容も昨年同等の90%の生徒が理解できた。</p> <p>②少人数授業の効果が高く90%以上で効果があると回答し、工夫を凝らした授業ができた。</p> <p>③個々の生徒に応じた補習などを行っている割合が85%で、ほとんどの教員が行った。</p> <p>④学習習慣の確立に85%の生徒が意欲的に取り組んでいるが、教員の評価では、70%が意欲的な学習姿勢に課題がある。</p> <p>⑤ICT機器を活用するなど、わかりやすい学習指導を全教員が行っていた。</p> <p>⑥教員の評価では、70%が「意欲的な学習姿勢が定着している」と回答した。</p>	B	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の確実な定着や観点別評価を更に適切に推進し、個に応じた学習指導を推進する必要がある。また、検定取得に関する認知度が低く、各教科科目の授業意欲の醸成が必要である。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導や習熟度別指導を利用したり、ICT機器を用いた学習指導により質の高い学びを工夫を凝らして行う必要がある。 	
		<p>○意欲的な学習姿勢の醸成と学習環境の整備</p>	<p>①各教科目で課題等の提出期限を守るための、生徒の状況に応じて粘り強く指導を重ねる。</p> <p>②生徒理解に基づいた学習指導を家庭の協力を得つつ日常的に行う。</p> <p>③各教科目においてICT機器に関する研修会を開催し、効果的な活用を推進する。</p> <p>④英語検定・漢字検定等の各種検定取得の奨励と、そのための補習等の日程調整および業務調整を図る。</p> <p>⑤新校開校に向けて施設等の工事計画や日程等を検討する。</p>	<p>①個々の生徒の実態に応じた指導ができた。</p> <p>②課題等の提出期限が守られ、提出できるようになった。</p> <p>③生徒理解に基づいた学習指導が実施できた。</p> <p>④ICT機器の活用ができた。</p> <p>⑤教員アンケート結果より学習指導等でICT機器の活用機会が増えた。</p> <p>⑥各種検定試験に取り組む生徒数が増加した。</p> <p>⑦各種検定の案内を積極的に行い、意欲的に取り組む生徒が増加している。</p> <p>⑧新校開校に向けた施設等の改修計画や日程調整が円滑にできた。</p>	<p>①生徒の状況に応じてアウトプット提出や課題提出期限を守る指導ができた。</p> <p>②個々の生徒状況を適切に把握し家庭との連携をはかり、学習指導ができた。</p> <p>③各教科科目で課題や授業プリントの提出期限を守らせる必要がなくなった。</p> <p>④ICT機器活用ができていて生徒が増加した。</p> <p>⑤各種検定試験に取り組む生徒数が増加した。</p> <p>⑥各種検定の案内を積極的に行い、意欲的に取り組む生徒が増加している。</p> <p>⑦新校開校に向けた施設等の改修計画や日程調整が円滑にできた。</p> <p>⑧新校開校のために必要な液晶タブレットや机等の整備を順調に進められた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡方法をICT機器を用い、情報共有して指導にあたる必要がある。また、各種検定取得に対する意欲が低い状況にある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いて保護者と連絡を密にして、学ぶ意欲の醸成を行う必要がある。また、学習サポートを活用して、「質の高い学び」に繋げる必要がある。さらに、効果的な学習方法として、インプットとアウトプットのバランスをとる必要がある。 新校開校にむけて整備された施設設備の活用方法を研究していく必要がある。 		
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に欠かせないインターネットやSNSにおいて、不適切な使用が見受けられている。 多くの生徒は基本的な生活習慣が確立され、落ち着いた学校生活を送っているが、特定の生徒が欠席や遅刻を繰り返している状況がある。 良好な人間関係の構築や学校生活等に課題を抱えている生徒が見受けられる。 きめ細かな進路指導により大多数の生徒が希望する進路を実現できているが、進学先や就職先の情報についての収集・分析や自己理解が不十分な状況がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会規範やマナー、基本的な生活習慣に課題がある生徒に対して適切な支援を行う必要がある。 インターネットやSNSの適切な使用ができるよう学校生活のあらゆる場面で指導するとともに、良好な人間関係を促す指導が必要である。 生徒自身が自己理解に基づく進路決定ができるよう、家庭との連携を図りながら指導する必要がある。 各種検査結果の活用を指導する必要がある。 部活動への参加を推奨し、自主性や積極性を醸成する必要がある。 	<p>○良好な人間関係の構築と基本的な生活習慣の確立</p>	<p>①インターネットやSNSの使用について家庭の協力を得ながら適切に使用を指導できるよう指導する。</p> <p>②社会規範の定着を学校生活のあらゆる場面で指導する。</p> <p>③部活動への参加を呼びかけるとともに、参加できない生徒へ最後までやり通すための支援を行う。</p> <p>④SC・SSWの活用及び状況に応じた地域・関係団体等との連携した取り組みを行う。</p>	<p>①インターネットやSNSの使用が適切にできた。</p> <p>②アンケート結果から、社会規範や基本的な生活習慣の確立が見られた。</p> <p>③日常生活の中で積極的に挨拶し、良好な人間関係の構築ができた。</p> <p>④部活動に参加する生徒の割合が増加した。</p> <p>⑤生徒相互の人間関係のトラブルが年度当初に散見されたが、現在はほとんどなく、良好な人間関係のもと生活できている。</p> <p>⑥SCやSSWと小さな心配事でも相談できる環境が構築できている。</p>	<p>①SNS使用マナーについて、トラブルが散見される。</p> <p>②基本的な生活習慣である、欠席しないや登校できている生徒が60%だった。</p> <p>③アンケート結果から、社会規範や基本的な生活習慣の確立が見られた。</p> <p>④日常生活の中で積極的な挨拶し、良好な人間関係の構築ができた。</p> <p>⑤部活動に参加する生徒の割合が増加した。</p> <p>⑥生徒相互の人間関係のトラブルが年度当初に散見されたが、現在はほとんどなく、良好な人間関係のもと生活できている。</p> <p>⑦SCやSSWと小さな心配事でも相談できる環境が構築できている。</p>	A	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣に課題がある生徒に対して適切な支援を行う必要がある。 インターネットやSNSの適切な使用ができるよう学校生活のあらゆる場面で指導するとともに、良好な人間関係を促す指導が必要である。 生徒自身が自己理解に基づく進路決定ができるよう、家庭との連携を図りながら指導する必要がある。 各種検査結果の活用を指導する必要がある。 部活動への参加を推奨し、自主性や積極性を醸成する必要がある。 	
		<p>○家庭と連携した進路意識の向上と進路実現</p>	<p>①生徒自身が自己理解に基づき進路決定ができるよう家庭と連携して支援を行う。</p> <p>②各学年の進路行事を計画通り円滑に行う。</p> <p>③必要に応じて個人面談を行い、主体的に進路決定ができるよう支援を行う。</p> <p>④地域との連携を強化し、進路選択の幅を拡大する。</p> <p>⑤生徒自身が主体的に進路について考察でき、具現化できたか等、アンケート結果に表れた。</p>	<p>①生徒自身が自己理解に基づき進路決定ができるよう家庭と連携して支援を行う。</p> <p>②各学年の進路行事を計画通り円滑に行う。</p> <p>③必要に応じて個人面談を行い、主体的に進路決定ができるよう支援を行う。</p> <p>④地域との連携を強化し、進路選択の幅を拡大する。</p> <p>⑤生徒自身が主体的に進路について考察でき、具現化できたか等、アンケート結果に表れた。</p>	<p>①自己理解に基づき進路決定ができるよう家庭と連携して支援が行われた。</p> <p>②各学年の進路行事に対する満足度が向上した。</p> <p>③地域との連携を生かした進路指導ができた。</p> <p>④生徒自身が主体的に進路について考察でき、具現化できたか等、アンケート結果に表れた。</p>	<p>①部活動に積極的に参加できている生徒が85%だった。</p> <p>②社会規範を身につけるための薬物乱用教室などに対する注意喚起が70%だった。</p> <p>③個々の生徒の特性にあった進路指導が各学年できている。進路意識ができていて生徒が80%を超えている。</p> <p>④生徒の発達段階に応じた進路指導が行われ、進路行事に対する満足度が80%以上であった。</p> <p>⑤「生徒の第三の居場所づくり」で地域のボランティアから様々な話を聞く機会があった。</p> <p>⑥各種進路に関する検査結果の活用には、教員と生徒自身に課題がある。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路行事に対する高い満足度を維持しつつ、進路決定に向けた家庭との連携して指導する必要がある。また、部活動への参加が生徒は高いが教員からは高くない。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自己理解に基づく進路意識を醸成し、自己決定できるよう個々の生徒状況に応じた支援を行う。また、第三の居場所などを活用して、生徒の自己肯定感を高めるようとする。さらに、良好な人間関係構築スキルを身に着ける指導が必要である。 	
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的探究の時間」の取組や「第3の居場所」の取組については、地域の方々やボランティアの協力を得て、実施されている。 地域の各種行事に生徒が参加し、大変喜ばれている。 生徒作品の展示を地域施設や近隣中学校で行い、本校教育活動の広報ができた。 外部部員に、PTAとは連携交換することができている。 学校説明会等を教員の負担軽減を図りながら工夫して開催してきたが、専任員確保に厳しい状況がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校HPについては、更新頻度と早期掲載を意識し、学校案内の充実を図らなければならない。 地域との連携を図るための日程調整等、教員の負担が大きいため、軽減できるよう工夫する必要がある。 本校の教育活動の広報活動として、地域の公共施設の活用や中学校交流事業等も検討していく必要がある。 学校行事で地域の方々とのふれあいや地域の公共施設での作品展示など、「笑顔に見てもらおう」機会をつくることで保護者・地域との連携を強化する。 	<p>○地域と連携した教育活動を積極的な情報発信</p>	<p>①本校の教育活動に関するHPの更新回数が増え、地域の方々へ積極的に情報発信する機会が増えた。</p> <p>②地域の各種行事に生徒が参加し、大変喜ばれている。</p> <p>③生徒及び保護者が参加できる地域行事やボランティア活動について情報を収集し、参加を奨励する。</p> <p>④SNSの活用等、新たな広報方法を研究する。</p>	<p>①HPの更新が昨年同様以上に行われた結果、アクセス数が増加した。</p> <p>②保護者や地域の方々へ積極的に情報発信することができた。</p> <p>③ボランティア活動へ参加する生徒が増加した。</p> <p>④新たな広報方法に関して検討ができた。</p>	<p>①HPの更新回数が増え、アクセス数が増えた。</p> <p>②地域の各種行事に生徒が参加し、大変喜ばれている。</p> <p>③生徒及び保護者が参加できる地域行事やボランティア活動について情報を収集し、参加を奨励する。</p> <p>④SNSの活用等、新たな広報方法を研究する。</p>	<p>①HPの更新回数が増え、アクセス数が増えた。</p> <p>②地域の各種行事に生徒が参加し、大変喜ばれている。</p> <p>③生徒及び保護者が参加できる地域行事やボランティア活動について情報を収集し、参加を奨励する。</p> <p>④SNSの活用等、新たな広報方法を研究する。</p>	A	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> HP更新回数の増加を維持しつつ、地域と連携した取り組みに対する協力者を増やす必要がある。また、広報活動は前例踏襲としている。 一部教員でなく全教員ができるものにする。また、ボランティアの募集についても研究する必要がある。
		<p>○募集定員の確保</p>	<p>①地域との連携を図り、本校の魅力を発信する。</p> <p>②教員の負担軽減を図りつつ、効果的な学校説明会の実施や外部の説明員へ参加する機会を増やす。</p> <p>③本校HPを更に活用して本校の教育活動について、適切な公開に情報発信する。</p> <p>④地域の方々の協力を図り、本校教育活動への参加を働きかける。</p>	<p>①地域との連携を図り、本校の魅力を発信できた。</p> <p>②教員の負担軽減を図りつつ、効果的な学校説明会等を工夫して効果的に実施できた。</p> <p>③本校HPを更に活用して本校の教育活動について、適切な公開に情報発信ができた。</p> <p>④地域の方々の協力を図り、本校教育活動への参加を働きかけた。</p>	<p>①地域との連携を図り、本校の魅力が発信された。</p> <p>②教員の負担軽減を図りつつ、効果的な学校説明会等を工夫して効果的に実施できた。</p> <p>③本校HPを更に活用して本校の教育活動について、適切な公開に情報発信ができた。</p> <p>④地域の方々の協力を図り、本校教育活動への参加を働きかけた。</p>	<p>①地域との連携を図り、本校の魅力が発信された。</p> <p>②教員の負担軽減を図りつつ、効果的な学校説明会等に説明員を増やした。</p> <p>③地域の方々の協力を図り、本校教育活動への参加者数が増加した。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的探究の時間等にボランティアの協力が得られているが、不十分な人数となっている。また、生徒募集定員の確保が厳しい状況にある。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明に参加人数を増やすための中学校訪問を計画的に行う。全職員協力体制を構築して行く必要がある。また、地域の各種行事に特定した生徒だけでなく、広く参加できる生徒を募集する。 	

学校関係者評価	実施日 令和8年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業や習熟度別授業は、生徒にとって有効な指導法である。授業中の教員に質問しやすく、良い環境で学習できている。 少人数授業は、1対1で教えてもらえているので、学習内容がわかりやすい。 少人数学習指導では、アイスブレイクを授業の始めの5分間行ってから授業に入る学習環境がよい。 ICT機器によりグループワークなどで意見交換するので生徒同士の意見の共有化がはかれている。 義務教育では、朝学習など「基礎基本的な学習内容の定着のために市販ソフトを効果的に活用している。 ほとんどの教員がICT機器を用いた授業を行い、生徒もICT機器を使用したわかりやすい授業ができています。より一層推進してもらいたい。 ICT機器で教員からの回答に対して、挙手して回答するのではなく、ICT機器を活用して回答することで、授業参加意欲が高まっている。 学習姿勢については、教員の意識と生徒の意識に乖離があるのは、教員の生徒に求めているレベルが一致していないからと考えられる。 家庭での課題チェックは高校生なのであまりしていない。 生徒間より課題提出期限等の連絡を取り合っているのが9割以上。提出期限を守れている。 ICT機器は、総合的探究の時間等でもスライドを作成したり、意見交換で使用している。
基本的生活習慣の課題は、ゲーム等が影響しているのではないが、夜更かしの影響で朝起きられない。	
高校生活を目的を持って基本的な生活習慣は改善すると考える。	
欠席が多い理由は、人間関係のトラブルが多いのではないかと考えられる。授業などで生徒間でコミュニケーションをとる機会が増えれば人間関係の向上にもつながり欠席も減るとはならない。	
進路指導では、1年次は進学希望者と就職希望者を分けて進路指導行事があった。2年次はそれぞれ専門の進路希望者としたので、細かいところまで理解できるようになった。	
美術科では、上級学校見学が専ら専門学校や大学などを見学する機会があるので普段の学生の様子が変わり、大変参考になっている。	
上級学校見学の学校は、保護者や生徒の希望を聞いたらとるとよい。	
部活動では、初心者が多く少人数ではあるが他校との合同チームを編成し大会出場している。友達などに誘われて入部している生徒が多い。	
今年3年生がいるので部活動ができていて、卒業してしまうと数名になってしまうので今後の部活動が心配だ。	
美術部では、作品完成に向けて、楽しく作品制作ができています。	
一部の部活動や生徒会などでInstagramを使用しているので、部活動の体験入部の参加中学生が増えた。	
進生町はハイキングの取組に対してトレッキング部などをつくって、観光協会との連携した取り組みを考えてみてよいのではないかと。	
Instagramで授業の様子なども発信できると本校のPRに良いのではない。	
「第3の居場所づくり」では、高校生になって絵本を読む機会はないので、物事に対する考え方や見方を学ぶことができた。	
絵本の読み聞かせが面白かった。先入観で絵本なんて思っていたが楽しかった。	
図書館が5階で階段を上るのがつらいから、図書館に行きづらい。自備館をみてみるのも良いのではないかと。	
生徒会生徒が地域の祭りや清掃活動をしているのは、大変大切なこと。	
越生高校の生徒が前向きに取り組んでいる様子を中学校生徒に伝えたい。	